

附
添
紙

亞細亞局

第一課甲
第二課

送名

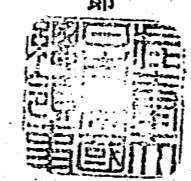
機密公第三二二號

大正十四年八月二十五日

在奉天

總領事 船津辰一 耶

外務大臣男爵幣原喜重郎殿



撫順炭鑛々區内ニ於ケル行政權ニ關スル件
撫順炭鑛々區内ニ於ケル行政權ハ滿鐵會社ニ於テ買收シタル區域ハ
滿鐵本線沿道附屬地ト同様支那側一切ノ行政權ヲ排除シ我方行政管
下ニ歸屬セシメ居レリ
然ルニ支那側ハ撫順炭鑛々區内ハ滿鐵會社ニ對シ採炭並ニ其レニ附
隨セル事業ヲ營ミ得ル權利ヲ與ヘ居ルニ過キス從テ關東廳カ此地域
ニ而モ未買收地ニマテ行政權ヲ行使シ、アルハ明カニ條約上越權

在奉天日本總領事館



S 1.4.4.0.-1 52

的行爲ナリト稱シ其行政權ヲ回收セントスル意圖ヲ有スルモノ、如
シ去レト多年ノ慣行ヲ一朝ニシテ打破スルハ容易ナラサルニ付既買
收地ハ暫ラク之ヲ問題外ニ置キ先ツ以テ最近滿鐵側ニ於テ買收シタ
ル地域即チ楊柏堡村ノ如キニ對シテハ支那側從來ノ行政權ヲ撤去セ
サルノミナラス我警察權ノ進出ヲ阻止シ又未買收地ニ侵出セル我方
行政權ノ驅除ヲ斷行セントシツ、アリ
查スルニ撫順ハ多年ノ慣行ニヨリ滿鐵會社ノ未タ買收ヲ行ハサル地
域即チ日支人雜居地（別紙添付地圖朱線内ノ地域）ニ對シテマテ鐵
道附屬地同様全然支那側ノ行政權ヲ排除シ我方行政權ノ支配下ニ置カ
レアル處右ハ條約上何等ノ根據ナキ越權的行爲ニシテ時代思想ノ變
化シ來レル今日ノ支那側當局カ斯ル地域ノ行政權ヲ恢復セントスル
ハ蓋シ當然ノ要求ト認メラル
然レトモ今日支那側ノ要求ヲ容レ多年ノ慣行ヲ改メンカ支那側ハ撫

在奉天日本總領事館

S 1.4.4.0.-1 52-1

順一帯カ條約上開放地ニ非ラサルト共ニ鐵道用地ニアラサルノ故ヲ以テ滿鐵カ買收シタル地域タルト否トヲ論セス舉ケテ其行政權ハ支那ニ復歸セシムヘキモノナリト要求スルニ至ルヘシ若シ夫レ該地ヲシテ一旦支那側行政配下ニ置カンカ炭坑事業上幾多ノ障礙ヲ來スヘク現行施設上種々不利ノ結果ヲ見ルハ支那側從來ノ遣リ口ニ照ラシ蓋シ想像ニ難カラサル處トス

茲ニ於テ我方ハ法理上ノ根據極メテ薄弱ナルニ不拘支那側ノ正當且ツ合法ノ主張ニ對シテモ頑強ニ抗爭シ來レル所以ナリ

今般新任セラレタル撫順縣知事李濟東ハ赴任ニ當リ當館後藤書記生ニ對シ

撫順ノ地タルヤ炭鑛用地トシテ滿鐵カ採炭上必要ナル地域ノ買收ハナシ得ラルヘキモ滿鐵々道用地ト其ノ性質ヲ異ニセルヲ以テ東清鐵道條約第六條ニヨリ律セラルヘキモノニアラス然ルニ日本ハ

在奉天日本總領事館

S 1.4.4.0 - 1

53

ハ之ヲ鐵道附屬地ト同様ニ取扱ヒ來レルハ誤レルノミナラス炭鑛用地トシテ未タ買收セサル地域ニマテ日本ノ行政權ヲ行收シツ、アルハ不合理極マル行爲ニ屬スルヲ以テ該地ニ赴任ノ上ハ誠心誠意之等舊弊ヲ打破セン所存ナルモ急激ノ改善ハ事ヲ誤ル虞アレハ徐ロニ實行セン方針ナリ、而シテ差シ當リ斷行セサルヘカラサル問題ハ目下支那側ニ於テ最モ不快トスル

(1) 炭坑用地トシテ未タ買收セラレサル地域ニ於ケル日本ノ行政權回收

(2) 炭坑用地トシテ買收セラレタル地域内ニ支那側軍警ノ立入り又ハ通過セントスルニ當リ其都度豫メ日本官憲ノ承認ヲ經サルヘカラサル制限ノ撤廢

ノ二問題ナリ右二問題ノ解決ヲ見サル限り該地ハ日支間ノ紛擾ヲ絶ツ能ハス兩國ノ親善關係モ得テ望マレサル次第ナレハ此際

在奉天日本總領事館

S 1.4.4.0 - 1

54

日本側ニ於テモ誠意ヲ以テ公平ナル解決ヲ切望ス云々ト語リタル趣ナリ

思フニ撫順ニ於ケル行政問題ハ不日必スヤ擡頭スヘキヲ以テ今日之カ對策ヲ講究スルハ緊要事トス、本官ノ卑見トシテハ先ツ以テ既買收地域ニ於ケル我行政權ハ飽マテ之レヲ保持スルト同時ニ未買收地ニ侵出セル我行政權ハ漸次撤退セシムル方針ヲ確立スルコト並ニ撫順市街ノ現狀ヨリ（支那人市街地ハ既買收地ニヨリ包圍セラレ居レリ）按シ既買收地内ニ於テ職務ヲ執行セシメサル條件ノ下ニ支那側軍警、保甲ハ無承認ニテ立入り又ハ通過ノ自由ヲ與ヘ以テ支那側上下ノ反感ヲ緩和シ今後ノ變化ニヨリ或ハ日支共同炭鑛警察ノ如キモノヲ創立シ特別行政區域トシテ特別ノ取扱ヒヲ行ハシムルハ一策カトモ思考ス

就テハ右ニテ支那側ノ意向御了察ノ上本件今後ノ對策ニ關シ篤ト

在奉天日本總領事館

御研究相成何分ノ御指示相仰度茲ニ卑見ト共ニ報告申進ス

本信寫送付先 在支公使

關東長官

滿鐵本社

遼陽領事

撫順警察署長

在奉天日本總領事館

附屬書類添附 亞細亞局

第三課

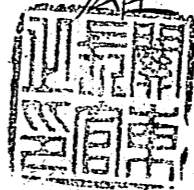
一名

關機外第四四六號三

大正十四年十月七日

關東長官伯爵兒玉秀雄

外務大臣男爵幣原喜重郎殿



大正十四年十月七日附滿鐵社長宛
關機外第四四六號寫送付

一 於ケル行政権ニ関スル件

受第 74. 10. 12

S 1.4.4.0-1 57

寫

關機外第四四六號ノ二

大正十四年十月七日

關東長官伯爵 兒玉秀雄

南滿洲鐵道株式會社

社長 安廣 伴 一郎 殿

撫順炭礦區内ニ於ケル行政権ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ在奉天船津總領事ノ外務大臣宛報告兼意見書（八月廿五日）
附機密公第三二二號一寫ハ同總領事ヨリ當廳及貴社ヘモ送付有之候處右ニ關
シテハ慎重ノ考量ヲ要スル儀ニ有之貴社ノ御意見承知致度候ニ付委細御回示
相成様致度此段申進候也

本信寫 送付先

外務大臣 在支公使

以上

S 1.4.4.0-1 58

文書課長

文書課發送

信案

○

○

文書課長

文書課發送

淨書

正(原稿)

(淨書)

(甲號用紙)

主 菅 亞細亞局長

主 菅 亞細亞局長

(起草 大正十四年十月廿七日)

機密

號

大正

年

月

日

附

附屬書

通

受信

在奉天

人名

吉田 總領事

發信

幣原 大臣

件名

撫順炭鉱々々区内ニ於
ケル行政权ニ関スル件

名 込 綴

本件ニ関シ本年八月二十五日附機

密公文ヲ以テ本領

事ヲ報告シテ了承本件

公 信 案

外 務

(乙號用紙) 國精

合符書送書上ノ田ノ抄署セリ 表支十七

本領事官

在奉天

外 務 省

S 1.4.4.0 - 1

60

S 1.4.4.0 - 1

59

REEL No. A-0463

0 3 9 8

アジア歴史資料センター

乙 號用紙 國語

ハ今信未従今臨領事ノ意見
通り未買収地ニ侵出セル行政
ヲ漸次撤退セシメ且既買収地内
ニ於テ職斂ヲ執行セシメ其条件ノ
下ニ支那側軍斂停甲ノ無承認立
入又ハ通過ノ自由ヲ與フルハ時勢
ノ變化ニ顧ミ且又支那側上下ノ

外務省

乙 號用紙 國語

反感強知上ヨリ云フモ止ヲ得ナル
ニ至ルヘント思フセラル、モ之カ爲
支那側カ勢ニ乘シ其約上ヨリ撫順
一帯ノ行政收回收ヲ要求シ来ルヤ
又必然ナリトテ想セラル、ニ付前記
ニ事項ヲ支那側ニ許容スルハ今時
ニ一方之ヲ其条件トシテ既買収地

外務省

五

●

●

●

●

●

(乙 號用紙) 國籍

ニ関シテハ、極力従来ノ主張ヲ支持シ
 殊方ノ行政权ヲ確立セシムルニ力メ
 楊和保土村ノ如キ既買收地ニ於ケル
 支那側行政权ヲ撤去セシムルストモ
 要イリト信ス

然レトモ右ハ踏ム一時的昇格ナルニ
 止リ將來滿鉄ノ炭鉱用地擴張毎

S 1.4.4.0-1 63

五

●

●

(乙 號用紙) 國籍

ニ抑議ヲ生スヘキヤ予想スルニ難カ
 ラサル処終局ニ於テハ船棹船領子
 ノ所見ト全シテ炭鉱地帯又ハカウト
 毛今後ニ於ケル買收地ヲ日支共合行
 政ノ下ニ置クノ地ナキモノト認メラル

S 1.4.4.0-1 64

外務省

外務省

REEL No. A-0463

0400

アジア歴史資料センター

大正十五年七月十二日稿

〇〇〇

南滿洲鐵道附屬地ノ法理的性質及行政權ニ付テ

通商局

外務省

(已號用紙) 圖納

S 1.4.4.0 - 1

67

(已號用紙) 圖納

南滿洲鐵道株式會社鐵道附屬地ノ法理的性質ニ關シテハ未タ定論ナ
キモノノ如クナルモ我國力鐵道及之ニ附帶スル諸事業ノ遂行上必要
ナル限度ニ於テ支那ノ主權ノ一部ヲ排斥シ茲ニ我主權ノ一部ヲ行使
スル土地ノ範圍ナリト言フモ大過ナキカ如シ

抑々鐵道附屬地ハ一八九六年露清銀行ト支那政府トノ間ニ締結セラ
レタル東清鐵道會社設立ニ關スル條約(註一)ニヨリテ設定セラレ
タルモノニシテ安奉沿線ヲ除ク滿鐵附屬地ハ悉ニ東清鐵道南滿洲支
線ト稱セラレ一八九八年支那政府ト東清鐵道會社トノ間ニ締結セラ
レタル東清鐵道會社設立ニ關スル續約(註二)ニ依リテ設置ヲ議定
シ日露戰後帝國政府力露國政府ヨリ之ヲ讓受(日露講和條約)(註
三) 清國政府ノ承認(註四)ヲ得タルモノナリ安奉沿線ニ付テハ明

外務省

S 1.4.4.0 - 1

68

治三十八年十二月滿洲ニ關スル條約附屬協定第六條ヲ以テ安奉鐵道ニ關スル事項ハ東清鐵道ニ準スルコトヲ規定スルカ故ニ同鐵道沿線ノ法律關係ハ他ノ鐵道附屬地ト同様ナリト解スヘキナリ從テ滿鐵附屬地ノ法理的性質及我行政權ノ範圍ハ東清鐵道會社設立ニ關スル條約ノ解釋ニ依リテ定マルヘシ依テ同條約ヲ根據トシテ滿鐵附屬地ノ法理關係及我行政權ノ範圍ヲ研究セムトス

(已號用紙) 圖納

外務省

S 1.4.4.0 - 1 69

註

(一) 一八九六年東支鐵道建設及經營ニ關スル契約拔

第五鐵道地域内ノ刑事事件訴訟等ハ條約ノ規定ニ從ヒ地方官憲之ヲ解決スヘシ

第六鐵道ノ建設、經營及保護ノ爲ニ必要ナル土地並ニ土砂、石塊、石灰等ヲ獲得スル爲ニ必要ナル鐵道沿線ノ土地ニシテ官有地ナルトキニハ無償ニテ會社ニ引渡サルヘク私有地ナルトキニ時價ニ依リ該土地所有者ニ對スル一時拂若ハ年賦拂ヲ以テ會社ニ引渡サルヘキモノトス

會社所屬ノ土地ハ一切ノ不動産稅ヲ免除セラルルモノトス
會社ハ其土地ニ關シ絕對的且排他的行政權ヲ有スヘシ

(已號用紙) 圖納

外務省

S 1.4.4.0 - 1 70

會社ハ其土地ニ於テ一切ノ種類ノ建造物ヲ建設シ鐵道ニ必要ナル電信ヲ建設經營スルノ權利ヲ有スヘシ又會社ノ收入、旅客及貨物ノ運輸並ニ電信等ヨリ生スル一切ノ收入及料金ニ付テハ一切ノ課金ヲ免除スヘシ但シ鑛山ハ之ヲ例外トシ特別ノ協定ニ俟ツヘキモノトス

(二)東清鐵道會社續約拔

第一條本約款ニ議定セル東清鐵路ノ支線ハ旅順、大連灣海岸ニ連スヘキモノナリ之ヲ東清鐵道南滿洲支線ト稱ス

(三)日露講和條約第六條

露西亞國政府ハ長春旅順口間ノ鐵道及其一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利特權及財産並同地方ニ於テ該鐵道

(已號用紙) 圖納

外務省

S 1.4.4.0 - 1 71

ニ屬シ又ハ其ノ利益ノタメニ經營セララルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清國政府ノ承認ヲ以テ日本政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

(四)滿洲ニ關スル條約拔

第一條清國政府ハ露國カ日露講和條約第五條及第六條ニ依リ日本國ニ對シテ爲シタル一切ノ讓渡ヲ承諾ス

(已號用紙) 圖納

外務省

S 1.4.4.0 - 1 72

滿鐵附屬地内ニ於ケル裁判事務及外交事務ハ領事管掌ニ屬シ軍事ニ關スル事項ハ關東軍司令官ニ警察權ハ關東長官ニ一般行政權ハ南滿洲鐵道株式會社總裁ニ屬ス
裁判事務ノ我領事ニ屬スルハ附屬地ナルカ故ニアラスシテ日支通商條約ニ基クモノナリ
外交事務ノ領事ニ屬スルモ又附屬地カ一行政團體トシテ外交權ヲ有スルニハアラス我現行制度上滿鐵附屬地ノ涉外事項ノ處理ヲ領事ニ於テ管掌スルコトトナリ居ルニ過キス
軍事ニ關シテハ大正八年四月軍令陸第一二號關東軍司令部條例ニ依リ關東軍司令官ハ南滿ニアル陸軍諸部隊ヲ統率シ南滿ニ在ル鐵道線路ノ保護ニ當ルコトトナリ居レリ我駐兵ノ根據ハ「ボーツマス」追

(已號用紙) 圖納

外務省

S 1.4.4.0-1 73

加條約第一兩(日露)締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護センカタメ守備兵ヲ置クノ權利ヲ保留ストノ規定ニ基ク之ニ依リテ見レハ我國ニ於テ鐵道保護ノ爲メノ駐兵權ノ外附屬地ノ軍政權ヲモ有スルモノトハ謂ヒ得サルカ如シ

(已號用紙) 圖納

警察權

日露戰爭前東清鐵道會社カ有シタル東清鐵道附屬地内ノ警察權ハ支那政府力之ヲ該會社ニ附與シ(註五)タルモノニシテ其後帝國政府ハ露國政府ヨリ鐵道及之ニ附屬スル一切ノ權利財產ト共ニ之ヲ繼承シ(註六)支那政府亦之ヲ承認シタリ(註七)而シテ帝國政府ハ之ヲ關東長官ノ權限ニ屬セシメタリ然レ共右露國ヨリ讓渡セラレタル警察權ハ行政警察ノ權ニシテ司法警察權ハ我國カ支那ニ於テ治外法權

外務省

S 1.4.4.0-1 74

ヲ有スルニ基クモノニシテ露國ヨリ讓渡セラレタルモノニ非スト思
考セラル

註(五) 東清鐵道會社條例第八條抜

鐵道及其附屬物ノ爲讓受ケタル地所内ニ於ケル秩序安寧ノ保護
ハ會社ノ任命スル警察係ニ委任スルモノトス

此レカ爲メ會社ハ鐵道ニ於ケル警察規則ヲ制定スヘシ

(六) 註參照

(七) 註四參照

(已號用紙) 圓納

外務省

S 1.4.4.0 - 1 75

一般行政權

一八九六年東支鐵道建設及經營ニ關スル契約ニ依レハ第六條ニ「會
社ハ其土地ニ關シ絶對的且排他的行政權ヲ有スヘシ」ト約定ス之ヲ
鐵道附屬地設定ノ精神ヨリ觀ルニ所謂保線用地停車場用地以外ニ一
定ノ地區ヲ劃シ鐵道防備ノタメ軍隊ヲ駐屯セシメ鐵道及其附帶事業
ノ爲從業員ヲ居住セシメ旅客ノ爲旅館ヲ設置シ或ハ貨物集散ノタメ
商人ヲ招致スル等諸種ノ事業ヲ經營スルニ當リ人情風俗、統治組織
文化程度等ヲ異ニスル支那政府行政ノ下ニ屬セシメンカ幾多ノ不便
不利ヲ生シ到底所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘシ、之一定地域
ニテ排拒スルハ殖民會社ノ本質上當然ノコトニシテ前記東支鐵道建設
及經營ニ關スル契約第六號ノ規定モ此ノ精神ニ外ナラサルモノト思

(已號用紙) 圓納

外務省

S 1.4.4.0 - 1 76

(已號用紙) 圖納

考セラル而シテ帝國政府ハ滿鐵附屬地ニ對スル警察權以外ノ一般行政權ヲ滿鐵會社ヲシテ行ハシム我政府カ滿鐵ニ發シタル命令書中行政權ニ關スルモノ左ノ如シ(註八)

明治三十九年八月一日遞信、大藏、外務三大臣連署ヲ以テ發シタル命令書拔

第五條 其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地内ニ於ケル土木教育、衛生等ニ關シ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第六條 前條ノ經費ヲ支辨スル爲其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地内ノ居住民ニ對シ手数料ヲ徵收シ其他必要ナル費用ノ分賦ヲ爲スコトヲ得

右ニ依リ會社ハ政府ノ認可ヲ得テ明治四十年九月社則第十五號公費

外務省

S 1.4.4.0 - 1

77

(已號用紙) 圖納

手数料規則ヲ制定シ租税ノ性質ヲ有スル公費手数料ヲ賦課徵收シ又之カ手数料トシテ家宅營業所帳簿物件ヲ臨檢検査シ又徵收ヲ有效ナラシムル爲民事訴訟ニ依ラサル會社所定ノ滯納處分ヲ行フ

會社ハ明治四十年九月附屬地居住者規約ヲ制定シ此地ニ入り來ル者ハ其法ニ服スルコトヲ承認セルモノナリトノ主義ノ下ニ附屬地居住者及借地借家人ニ對シ會社諸規則ノ遵守及公共費用ノ負擔ヲ強制ス註(四)此ノ命令書ノ法律上ノ根據ハ明治三十三年法律第八七號外國ニ

於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル法律及明治三十九年勅令第一四二號南滿洲鐵道株式會社令ニ求ムルコトヲ得

以上ニ依リテ之ヲ觀ルニ滿鐵附屬地ニ行使セラルル我行政權中行政警察權(保安、風俗、衛生、交通、產業警察)保育行政權(土木、

外務省

S 1.4.4.0 - 1

78



分類 1.4.4.0-1



亞細亞局長

貸第 五九〇 號

大正十五年八月三日

東洋拓殖株式會社

外務省亞細亞局第一課

中

奉天附屬地ニ於ケル露華人發展ノ狀況ニ關スル件
右調査書別冊寫ノ通今般弊社奉天支店ヨリ提出致來候ニ付御參考迄壹
部茲許同封供高覽候也



記録簿
東洋拓殖株式會社

S 1.4.4.0-1 80

教育、衛生、産業、都市經營（並軍政權及財政權ノ各一部ハ鐵道及其附帶事業經營上必要ナル限度ニ於テ附屬地ノ本質上當然我國ニ屬スヘキモノニシテ且附屬地ニ關スル特殊條約上各々其根據ヲ有ス右ノ外司法警察權、法政權、刑政權、通信行政權ハ對支一般條約ニ其根據ヲ有シ附屬地ナルト附屬地外ナルトニ依リ異ルコトナシ

(已號用紙) 圓納

外務省

S 1.4.4.0-1 79

奉
天
支
店

奉天附屬地ニ於ケル露華人ノ發展

- 一 露華人戸數、人口ヨリ見タル趨勢
- 二 不動産所有ニ對スル制限
- 三 右制限ニ不拘事實所有スル實際方法
- 四 業務別ヨリ見テ何業カ發展シツツアリヤ
- 五 時局關係ヨリ官吏資産家カ別荘的ニ家屋所有スルモノノ程度
- 六 露華人發展ノ日人ニ對スル利害關係
- 七 華人發展ノ當社ニ對スル影響
- 八 之ニ對スル當社ノ態度

S 1.4.4.0.-1

81

REEL No. A-0463

0403

アジア歴史資料センター

一、奉天附屬地ノ人口ハ大正五六年ヨリ七八年ノ好況時代ヲ除キテハ明治四十一年以來六年位ニ倍加シツツアリ而シテ最近五ヶ年即チ大正九年末ト大正十四年末ヲ比較センニ約一倍七分増ニシテ此中特ニ増加シタルハ外國人(主ニ露)ニシテ約廿倍近クトナリ故モ増加率ノ大ナルハ大正十一年ノ十倍ナリトス露國人ハ本國赤化ノ結果來住スル者多ク今ヤ一千人ヲ超エ朝鮮人(一八八人)ニ比スレハ四倍ニシテ今後モ増加ノ傾向アリ大正十四年末現在ニテ日本人ハ朝鮮人ト合シテ一萬八千人支那人ハ一萬五千六百八十二人ニシテ全數ヨリ見レハ支那人ノ方少ナキモ男子ノ數ハ却テ支那人ノ方三千人多ク日本人ノ六三三七人ニ對シ支那人ノ一三二〇六人ナリトス支那人ノ増加ハ漸増的ニシテ年ニヨリ不同ナク男子ハ毎年二割内外女子ハ一割乃至二割位増加ス而シテ最近五ヶ年ノ増加ハ一八倍餘日本人ノ一四倍ニ比シ遙ニ優勢ヲ示ス然ルニ戶數ニ付テ之ヲ見ンカ日本人四一三九(一戸四人)支那人三三三〇(一戸六人)外國人二三四(一戸四人餘)ニシテ戰後好況時代ヲ除キテハ最近毎年三七百戸即チ總數ノ一割宛増加スル傾向アリ此内支那人ハ最近ノ増加率ニ日本人ヲ超エ毎年二割内外ノ増加ニシテ數ヨリ見ルモ日本人ト同數若クハ二二倍宛ナルヲ見レハ如何ニ近來華人ノ發展著シキカラ察知スルニ足ラン

二、奉天戰後郭城ノ當時奉天城危殆ニ瀕スルヤ附屬地ニ避難シ來レル支那人甚タ多ク其後ニ於テモ支那人ノ附屬地來住ヲ望ミ不動産ヲ所有セントスル者日増加シツツアリ附屬地ハ支那籍ニ比シ道路モヨク上下水道、瓦斯ノ設備アリ萬事便利ニシテ衛生状態モヨク税金等モ變ラサルニ據テテ加ヘテ戰禍ヲ蒙ルコトナク安全ナル爲ナリ然ルニ滿鐵ニ於テハ附屬地ニ對シテ大正九年以來日本人以外ノモノニハ殆ント貸付ケサルモノナリ現在附屬地ハ百八十萬坪ニシテ内百萬坪カ貸付済ナリ日本人二〇〇口支那人一一〇口内分レ東洋人以外ノモノニハ總對貸付ケサル方針ナリトス支那人一一〇口ノ内大正九年以後ニ於テ貸付タルモノハ六口ニシテ交換條件ヲ附シタル有力ナル支那人ナリト云フ滿鐵ハ附屬地ノ狹隘ナル爲メ之ヲ一校支那人ニ貸付クルトキハ申込殺到シテ忽チ土地ニ不足ヲ生シ日本人ノ權利侵害サルル虞アルヲ以テ今後附屬地ノ區域擴張サルル迄ハ現在ノ方針通り日本人以外貸付サルモノナリト

三、右ノ如ク制限ヲ設ケテ露華人ニハ附屬地ヲ貸付ケサルモ支那人ハアラユル手段ヲ講ジテ附屬地ニ不動産ヲ所有セントスル者多ク呢懇ナル日本人ノ

名義ヲ用ヒ表面上日本人ノモノナレト事實支那人カ所有スル場合少ナカラズ
而シテ事實上所有者タル支那人ハ名義上所有者タル日本人ヨリ白紙委任狀ヲ
徴シ何時ニテモ其地上ノ建物ヲ賣却シ得ル様爲シ一方日本人ヨリ地上ノ建物
ニ付テハ事實支那人ノモノナルコトノ差入證ヲトリ後日ノ齟齬ヲ生セサル様
手段ヲ辭シ居レリ尙中ニハ支那人カ出資又ハ金ヲ貸シ日本人名義ニ建築ヲ爲
シ落成ノ後其支那人カ之ヲ借受ケテ家賃ヨリ出資ニ歸スル配當又ハ利子ヲ差
引クカ如キ方法ヲ以テ相互ニ利益ヲ圖リツツアルモノアリ

四 業務別ヨリ見テ露人ハ自働車運轉手、苦力ナトノ下級勞働、支那人ハ
商工業、日本人ハ商工業ノ主腦公務ニ從フモノ多シ而シテ傳業カ發展シツツ
アリヤト言フニ大正九年末ト大正十四年末トヲ比較スレハ次ノ如シ
農業ハ日本人少々減シ支那人ハ一般人口増加率(一倍七分)ト同一比例ヲ以
テ増加シタルモノトスコレ商租問題ノ未解決等ニヨル影響ナラム
礦業ノ日支人共ニ減少セシハ一般財界不況ニヨルモノトス
交通業ニ從事スルモノノ中支那人減シ日本人増加シタリト云フモ一般人口増
加率ニ比スレハ割合ニ少ナク六百八人増ノ一五倍ナリ

公務及一般自由業者ハ支那人ノ減少ニ不拘日本人倍加セリ
而シテ最モ發達ノ著シキハ商工業殊ニ支那人ノ倍額増加カ日本人ノ商業ニ於
テハ一倍工業ニ於テハ二五倍増ニ比シ雲泥ノ差アリ
而シテ支那人ノ工業者ノ中九年末ニ比シ二倍以上トナリタルモノハ窯業、織
造工業、紙工業、皮骨及木竹細工、飲食料品嗜好品製造業、被服身ノ廻リ品
製造業、電氣瓦斯等天然力ニ關スル工業ニシテ就中窯業及織造工業ノ如キ大
正九年一人モナカリシモノカ前者ハ一人後者ハ二人トナリタルハ被服製造
業者ノ一八人ヨリ六〇一人ニ増加シタルモノト共ニ注目ニ價ス而シテ數ニ
於テ最モ多キモノハ飲食料品嗜好品製造業者(七〇四八)ニシテ必需品タル
衣食ニ關スル業カ多數ヲ占メ歐洲戰亂當時活躍セル化學工業ノ如キ却テ減少
セリ
概括スレハ奢侈品又ハ複雑ナル工業ヨリモ寧ロ日常必需品ニシテ簡單ナル工
業カ盛トナリツツアリ目下支那人ノ工業ハ幼稚ノ域ヲ脱セサルモ電氣瓦斯紙
工業等モ進々日本人ノ手ヲ離レテ獨立ノ域ニ進ミツツアリ
華商ハ偉大ナル勢力ヲ持チテ到ル處發展シツツアル例ニ澳レス附屬地ニ於テ

モ大正九年物品販賣業及宿屋（飲食店浴場ヲ含ミ）各一七〇人ナリシモノ
カ大正十四年末ハ前者ニハ一七人後者ニハ一人トナレリ

五 支那人ノ官吏資産家カ安全ナル附屬地ニ於テ別荘的ニ家屋ヲ所有スル
モノ多ク而モ壹萬圓以上五萬圓内外ノ大ナル建物はニシテ目下三十戸以上ニ達
スソノ主ナルモノハ張作相（吉林督軍 千代田通）、吳俊陞（黑龍督軍 千
代田通）張學成（軍閥長 富士町）、米春霖（兵站總監 加茂町）張樂山、
宗壽山等ニシテ所謂張作霖配下ノ大官ナリトス

六 斯クノ如ク露華人ノ附屬地ニ於ケル發展ニヨリ日人ニ對シテ精神上物質
上ノ影響少カラズ殊ニ露人ノ中赤露系ト認ムヘキモノ半數以上ヲ占メ而モ裕
福ナルハ白露ニ非スシテ赤露系ノモノニ多ク此等ノ活動ニヨリ今後思想上絶
對ニ影響ナシトセス然レ共目下蠢動スルニ過キス何等害アルヲ認メス吾々内
地人ハ却テ緊張スル位ナリ物質方面ヨリ見テ支那人ノ官吏資産家カ別荘的ニ
利用スルモノヲ除キテハ多ク商工業者ナルヲ以テ自然競争行ハレ彼等ノ低廉
ナル勞銀ト安價ナル貨物ノ爲メ日人ハ漸次壓倒サレ日人發展上障害多キハ論
ヲ俟タス然レ共之ヲ一面ヨリ見レハ害ニアラスシテ利益ナル場合多シ日人消

費者ニハ安價ナル物資ヲ供給シ日人生産家ニハ低廉ナル勞力ヲ提供シ日人ニ
シテ資本少ナキモノハ合辦事業トシ且ツ華人ト雖モ上流者ハ日貨ヲ利用シ尙
將來日支人間ノ親睦ノ度ヲ増スモノトスレハ大局ヨリ見テ有利ナリ附屬地ニ
於テ相當自信アル日商人ハ華商ノ發展ヲサマテ恐ルルモノニアラス華商カ如
何ニ薄利多賣ヲ行フモ日商人從來ノ得意先ナルモノハ一朝ニ失フコトモ無カ
ルヘク競争ニ堪エ得ヘケレハナリ

當路者ハ無制限ニ附屬地ヲ支那人ニ貸付クル場合ハ殆んど全部支那人トナリ
日本人ハ屬地サルモノトシテ之ヲ愛ヘ一定ノ款ニ違シタル今日支那人名義
ニテ附屬地ニ不動産所有スルコトヲ禁スルハ無理カラヌコトナレト之カ甚タ
シク支那人ノ感情ヲ害シ日本人ハ商租權ヲ以テ他ノ土地ヲモ其手中ニ收ムル
モノナリトシ附屬地及商埠地以外ノ土地ニ於テ權利ヲ得ルコトヲ確ヒ商埠地
ニ於テモ一度支那人カ日本人ヨリ土地ヲ買取ル時ハ可成之ヲ賣却セサル様種
々手段ヲ講シツツアリ而シテ近來日支人識者間ニ於テ斯ル一切ノ制限ヲ撤廢
シ雜居ヲ希望スルモノ頓ニ増加セルヲ見受ケラレ一考ノ價値アリト云フヘシ
七 華人發展カ當社ニ對シテハ目下ノ處何等惡影響アルヲ認メス附屬地ニ

アル華人ハ相當資産信用アルモノ多ク償還等モ特別ノ理由ナキ限り延滞スルコトナク回收ハ日本人ヨリモ却テ好成績ヲ示セリ且擔保物ハ附屬地ト云フ當社ニトリテ安全ナル地帯ニアリ處分モ容易ニシテ何等憂フヘキモノナシ財界好況時代赤手渡滿シ巨富ヲ夢ミテ不健全ニ發達セシ我商工業モ九年ノ恐慌ト共ニ事業墮跌シ遂ニ今日ノ窮乏ヲ來セルモ支那人側ニ於テハ着實ニ進ミ來レル結果奉票カ三百元近ク暴落セル今日ニ於テモ打撃ヲ受ケス附屬地ニ於テ當地擔保物競賣ニ際シ其裏面ニ競落者ニ支那人アルハ誠ニ悲シムヘキ事ナレト自業自得ノ結果ト云フヨリ外ナカラム而シテ若シ之等支那人ナケレハ益附屬地ニ於ケル不動産所有者ハ窮乏ヲ來シ當社ノ回收ニモ更ニ困難ヲ加フルモノアルト云フヘシ

奉票ノ下落ニヨリ金ノ回收困難ナルハ一般的ニシテ附屬地ノ支那人ノミ云フヘキモノニ非ス一面洋ノ下落ト共ニ物價高ヲ來シ資産評價額高マリ附屬地ニ進出スル程ノ資産アル支那人ニ於テハコノ影響ヲ受クルコト又一層少ナキモノナリ

八、華人ノ附屬地ニ不動産ヲ所有スルコトニ制限ヲ附シタルハ當局ノ立場

トシテ當然ノ事ナレト當社ニ對シテハ右ニ述ヘタル如ク惡影響ナク只今後名譽上ノ所有者タル日本人ト事實上所有者タル支那人トノ間ニ争ノ生スルコトナキヤノ疑問ハアルモ從來ノ例ニ於テ未タ之ヲ開カス而モ華人ノ發展ハ自然的趨勢ニシテ當社力之ヲ援助セズ傍觀スルモ發展スヘシ然レ共之ヲ援助シ特ニ日本人ノ不利ヲ來スカ如キ積極的援助ハ之ヲ爲ス必要ナカラム

モシ右ノ如キ申込アル場合ハ深湛ノ注意ヲ以テ之ニ關係アル日、華人ヲ調査シテ後日紛擾ヲ醸ササル様其邊ノ事情ヲ明ニシ又萬一ノ場合ハ直ニ之ヲ處分シ得ル様所有者ヨリ委任狀及承諾書ヲ徴シ直クハ勿論身分明ニシテ充分ノ資産信用アル支那人以外ニハ之ニ應セサル様爲スヨリ他ニ良策ナキカ如シ

會計帳簿
検査院へ

本件、會計帳簿在院
の検査に付、同帳簿を
査文ナリ
右の事、會計帳簿
但、無シ、帳簿、形
の事ナリ

南滿州鐵道株式會社附屬地行政權ニ關シ
條約上ノ根據ニ就テ

南滿州鐵道附屬地行政權ニ就テハ明治三十八年日露講和條約第六條
ニヨリ支那ノ承諾ヲ條件トシテノ帝國ハ露國ヨリ東清鐵道ニ關シ露
國カ露清條約（一八九六年締結）ニヨリ享有シタル一切ノ權利（絶
對的排他的行政權）讓渡ヲ受ク（右ニ對シ支那ハ明治三十八年十二
月滿州ニ關スル條約ニヨリ之ヲ承認セリ）
依テ政府ハ滿鐵會社ヲ設立シ之カ鐵道經營ヲ特許スルト共ニ明治三
十九年六月八日勅令第一四二號第十三條（政府ハ會社ノ事業ニ關シ
監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得）ノ規定ニ依リ同年八月一日
附錄第一四號ヲ以テ總督大藏外務三大臣ハ會社ニ對シ滿鐵附屬地

行政院
檢査
已號用紙 圓納

外務省

帶ニ於ケル土木教育衛生等ノ行政事務ヲモ運輸業務ト併セテ之ヲ行
フヘキコトヲ命令セリ唯警察及軍事ニ關スル權限ハ關東都督ニ屬セ
シメ又在留帝國臣民ニ對スル裁判權ハ依然之ヲ領事館ニ屬セシメタ
リ之ヲ要スルニ右南滿州鐵道附屬地ニ於ケル帝國行政權ノ根據ハ上
記日露及日清間ノ條約ニ依リ認メラレタル所ナルモ該行政權ニ對ス
ル監督權ヲ關東長官ニ與ヘタルハ國內法メ（官制）ノ關係ナルヲ以
テ國際條約ニハ之ニ關スル約締ナキ次第ナリ

已號用紙 圓納

外務省